

令和4年1月12日開催
薬事・食品衛生審議会
血液事業部会安全技術調査会資料

日本赤十字社 血液事業本部

輸血により抗新型コロナウイルス抗体が陽性となったことが疑われた症例について

日本赤十字社血液センターでは、献血後に COVID-19 と診断された、または濃厚接触者となった場合には、血液センターに連絡するように、全献血者をお願いしています。今般、そのような献血後情報に端を発して、輸血により SARS-CoV-2 に対する抗体が陽性となったことが疑われた症例が見出されたので、報告します。

- 献血者：血小板献血後6日目に、保健所よりこの献血者が新型コロナウイルスに感染し、献血履歴があったとの連絡が血液センターに入った。
- 輸血患者（受血者）：
成人男性。白血病に対して化学療法を施行後、副作用である血球減少に対し頻回の輸血を実施。
Day -7 SARS-Cov-2PCR 陰性、特異的 IgG 陰性
Day 0 当該献血者由来の血小板製剤を輸血
 （その他にも、Day-7～Day+17 の間に合計7本の輸血実施）
Day +17 SARS-Cov-2PCR 陰性、特異的 IgG 陽性
Day +21 SARS-Cov-2PCR 陰性、特異的 IgG 陽性
- 輸血後は、自覚・他覚症状は全くなく、また種々の血液検査でも変化は認められなかった。

受血者は当該血小板製剤を含め、合計8本の輸血を受けています。受血者の輸血後の検査結果や臨床経過が示す通り、輸血により SARS-Cov-2 ウイルスが体内で増殖したり、感染したものではありませんが、日本赤十字社としては、1) 血液製剤中に存在していた IgG 抗体が受血者に移行した（移行抗体が検出された）可能性、2) 当該血小板製剤に含まれたウイルスに対して受血者体内で抗体が産生された可能性を考え、ウイルス学的検索を進めることにしています。今後も献血血液に対する安全対策を堅持するよう努めてまいります。